

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

R2年度の 成果測定指標	単位	R2年度の目標値	R2年度の実績値
岸本基金研究助成 応募件数	件	215	181

未達成の要因と分析	<p>・概ね一貫して増加してきた応募件数であったが、平成29年度の271件をピークに3年連続で減少しており、他の同様の研究助成も減少傾向にある。これは、全国的に博士課程への入学者が減少しており、ライフサイエンスの若手研究者が減っていることなどが大きな要因と考えられる。</p>
-----------	--

今後の改善方策	<p>・全国的な博士課程入学者、若手研究者の減少という状況下にあるが、今後ともより多くの応募件数を確保できるよう、引き続きHP、学会誌等への掲載を行っていく。また、自然科学分野に関する学部・大学院を有する主要大学の学部長・研究科長に対し、引き続き学内での周知、案内を依頼するなど、本事業の一層の広報を図っていく。特にR3年度においては10周年誌の作製、配布など本助成事業を一層広報することにより減少傾向を抑える。</p>
---------	--

〔2〕

R2年度の 成果測定指標	単位	R2年度の目標値	R2年度の実績値
ホームページ総アクセ ス件数（月平均）	件	10,000	8,962

未達成の要因と分析	<p>・コロナのためR2年度はセミナー、新適塾、フォーラム等の主要事業を8月末まで中止した結果、年度前半の当財団へのアクセス件数は大きく減少した。 ・しかし、9月以降Webでの行事を再開すると、アクセス件数が大きく増加し、1月以降は10,000件以上のアクセス件数となっている。</p>
-----------	---

今後の改善方策	<p>・今後とも当財団のイベントについては、Web開催を継続実施していく。また、魅力あるコンテンツの充実を図るとともに、時宜にかなった最新情報の発信に努め、ホームページのより一層の充実に努める。 ・さらに、当団体のイベント情報を発信力のある団体等に掲載依頼を行うとともに、財団HPの無料リンク先の拡大に努め、閲覧機会の増を目指す。</p>
---------	---

■ 目標値未達成の要因について

[3]

R2年度の 成果測定指標	単位	R2年度の目標値	R2年度の実績値
総労働時間（マンパワーの効率化）	時間	3,660	3,720

未達成の要因と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナのためR2年度はセミナー、新適塾、フォーラム等の主要事業は8月末まで中止し、9月以降はWeb開催することとなった。 ・財団としてはWeb開催の事前準備や当日のトラブル対応及び講師との調整などで時間外勤務が増え、総労働時間の目標を達成することができなかった。
-----------	---

今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後ともWeb開催を継続実施していくが、経験を重ねることにより効率的な実施に努めるとともに、業務処理方法の改善を図るなどにより、総労働時間の縮減を目指す。
---------	--

[4]

R2年度の 成果測定指標	単位	R2年度の目標値	R2年度の実績値

未達成の要因と分析	
-----------	--

今後の改善方策	
---------	--